

# 令和5年度第1回たちばな支援学校学校運営協議会

令和5年度 第1回 6月1日(木)

出席者:委員10名、傍聴人5名

## 議題

- ①会長及び副会長の選出
- ②学校概要説明
- ③学校経営方針説明及び協議
- ④意見交換

## 協議した内容

- ① 会長 金川宏氏（有田市教育委員会教育支援員） 副会長 佐々木公平氏（廣八幡宮宮司）
  - ② 学校概要について、校長より説明
    - ・児童生徒数の推移 全校 200 名 増加傾向にあり、当面は現状程度が想定される。
    - ・教職員 採用3年以内の教員が18%。産休育休取得中の教員が15名おり、補充講師が入っている。
    - ・卒業生の進路状況 昨年度卒業生徒の一般企業就職率は、28.57%（本県特別支援学校全体18.82%）で、多かった。理解ある職場に恵まれたことと、ワークキャリア、ライフキャリアに力を入れる特色ある取組の成果ではないかと感じている。
  - ③ 運営方針について、『学校経営方針』及び『学校評価シート』を基に校長より説明
    - ・働きやすい職場環境作り（ICT活用、若手教員の育成）
    - ・授業力向上に向けた全校研修
    - ・地域に根ざした学校作り（湯浅なす栽培、インスタグラムを活用した情報発信）
    - ・危機管理と迅速な対応、防災教育の充実 等
- <各委員からのご意見>
- ・障害者就労生活支援事業において、今年度、一般就労に関する制度が変わってきている。昨年までは、公的機関へ支援はできなかったが、市町へ就労した場合の支援も可能になった。また、一般就労しながら作業所に行く等、福祉サービスも利用できるようになった。進路選択をする上で、進路指導の先生と連携していけたらと思う。
  - ・昨年、公的機関（居住地役場）へ就労された方が事務補助をしている。仕事を支援する担当者を付ける等、工夫した対応をしてもらっている。
  - ・県庁で雇用される事例もあるが、直接目に触れないため活躍がイメージしにくい。数年後に力を付けて居住地近くの公的機関に移れると、在校生や保護者にとって目標になるのではないか。
  - ・一般就労について、10年前は、会社回りで「障害者は、働けるのか。」と言われたが、今は、会社側が「企業の社会的責任だ。」と言ってもらえるようになった。考え方の変化はすごいと思う。
  - ・雇用者側としては、障害者が働く上で、通常働いている職員が働きながら支援するために掛かる負担が難しいところだと感じる。その部分は聞き取りをしながら対応している。また、職種においては、職場全体が理解できる部署で働いてもらい、数年後に次の部署に移る等、ステップアップすることを目標にできる仕組みにしている。

- ・職場で仕事を続けていく上で、業務内容だけでなく、働くことの意味や、意識、振る舞い等について雑談の中で伝えてくれる者を担当している。雑談だと受け入れやすいようで、理解してくれている。
- ・卒業し社会に出て、障害者スポーツにおいても全国大会に行く選手が多くなってきた。これも、現役の生徒にとって目標の一つになるのではないかと。様々な場面での卒業生の頑張りが、現役生の目標になると思う。
- ・障害は、一つの個性だと思う。できるだけ、一人一人の個性や特色を伸ばせることを目標に、将来に繋がるよう見守ってほしい。卒業時には、特技やPRできるものを作ってあげてほしい。
- ・働く意欲を育てる取組は、小学部から行っているということであったが、大切な事だと思う。
- ・雇用者側の視点として、仕事の内容により、適した役割がある場合がある。ある仕事は、失敗が多く本人も落胆する。ところが、別の仕事に替わると得意とし、成果を上げることがある。今後、IT関係は必要とされるし、子ども達の方が感覚も良く、得意と思われる。また、農業も最先端の物があるという。
- ・「たちばな支援学校」の存在は知られているが、実際のイメージがわきにくい。一般就労に向けて、受入側である企業に学校を知ってもらうことは重要である。隔年であるが、就労支援センターと企業を学校に招き、セミナーを継続していきたい。

\*委員から承認を受ける。

#### ④ 意見交換

- ・（小学部）地域との協働において、地域の方と一緒にできることや継続してできる活動。また、子ども達が地域に役立つ取組について、どのようなものがあるか、助言がほしい。
- ・（中学部）作業学習で小物を作成し、保護者に販売しているが、もう少し、職に繋がる厳しさがほしい。外部からの発注等、本物体験をしたいが、上手く繋がりができない。
- ・（高等部）作業学習を5班に分かれて、働く力を付けることを目標に取り組んでいる。担当教員も替わるため、引継ぎが難しく、製品（商品）の質向上が難しい。定期的に指導や助言をいただける専門家の方がほしい。

→どんなことをさせたいか、どんなことができるか、もう少し具体的な提案がほしい。

→社会的なニーズとして、知的障害の方は農業、肢体不自由の方はIT技術を身につけることが有効。

→皮革加工で財布や鞆を作る等、ニーズのある価値の高い物、皆がやらないことを目指すのはどうか。

→高等部の作業は、生徒によっては3年間継続し、下級生に指導できるようになるのも一つではないか。

- ・（学校）たちばな支援学校の取組や活動について多くの方や企業に応援していただきたい。

ゲストティーチャーとして来ていただいたり、職場実習を受けていただいたり、作業製品をおいていただける等。情報発信も行っていくので、紹介も願いたい。

